

令和2年度 徳島県立近代美術館協議会 会議録

1 日時 令和2年11月6日（金）10:00～12:00

2 場所 徳島県立近代美術館講座室

3 出席者

[委員] 10名中6名出席

岡山会長，兼松委員，岸上委員，田中委員，東浦委員，結城委員

[県立近代美術館]

館長，副館長，館員

[二十一世紀館]

主任主事

4 会議次第

① 開 会

② 館長挨拶

③ 委員紹介・職員紹介

④ 議 事

(1) 令和元年度事業実施状況について

(2) 令和2年度予算及び事業概要について

(3) 運営計画について

(4) 中期計画・中期目標について

(5) その他

⑤ 閉 会

5 会議概要

①令和元年度事業実施状況並びに令和2年度予算及び事業概要の説明

事務局から説明

②運営計画及び中期計画・中期目標についての説明

事務局から説明

(5) その他 質疑応答

委員

コロナ禍でも魅力的な美術館を運営しようと考え、多岐に渡り取り組んでいることが報告でわかった。保育所との連携やユニバーサル美術館としての取組は全国的に注目を浴びる地道な取組であり、スタートした頃から注目していたが、継続的に活動を積み重ね、成果を上げ成長をしているので素晴らしいと思った。今後も、この事業を育てていってほしい。

	<p>新聞に学芸員の記事が継続的に掲載されており、とても楽しみに読んでいた。県民の皆様も、より身近なものに感じて足を運んだのではないかと。</p> <p>30周年の式典の際に、アーカイブ展で掲載されていた高精細画像が面白く、今後どこにどういう形で展示されるのだろうかに興味深く思う。また、自分なりの見方や感じ方で作品をじっくり味わうという点において、今後こういったものを子どもたちへの教育に役立てていきたい。</p>
委員	<p>コロナ禍で工夫をして事業に取り組んでいることが伝わったが、協議会の資料については事前に送ってほしい。</p> <p>この協議会に参加する前に美術館のホームページを拝見したが、高精細な画像や子ども向けのコンテンツなど、館の努力が感じられ見応えがあった。こういったコンテンツを積極的に紹介することで、新たに足を運んで頂けるなどの動きが生まれるのではないかと。</p> <p>ユニバーサルミュージアムも先進的な取組であり、動画配信を今後も続けるとともに、学校関係や福祉事業関係など、様々なところに積極的に紹介をし、視聴者を増やしてほしい。また、視聴覚障がい者も美術を楽しめるように、活動を深めていってほしい。</p> <p>昨年に、高齢者施設など、新たな施設等でも積極的に普及事業活動を行ってほしいと伝えたが、このコロナ禍では特に高齢者施設への活動は厳しい。しかし、状況が落ち着いたら活動を広げてもらえると思っている。</p> <p>外国籍の方についても、特に技能実習生については、1年以上経ってもどこにも行っていないということがあるため、より外国籍の方にも足を運んでもらえるような、徳島のことを知ってもらえるような取組をしてほしい。</p> <p>様々な事業に取り組んでいるかと思うが、今後も、館が今まで取り組んだことがないような未開拓のことに取り組んでほしいと思う。</p>
事務局	<p>外国籍の方向けの取組としては、今年度に既に「やさしい日本語」というテーマで今年の夏に取り組んでいる。高精細画像についてはホームページにて閲覧可能な状態であるが、周知不足であるという御指摘については反省している。</p>
委員	<p>アートの日の活動では日頃からお世話になっている。昨年度までは出前授業や研修など、積極的に美術館の行事に参加していたが、今年度はコロナ禍で十分な参加ができず、子どもも残念がっている。そんな中でも、何とか感染をしない工夫をしながら、美術館を利用しているが、その際に美術館から、色々と助言や提案をいただき感謝している。</p> <p>昨今の状況では、行事などを計画しても中止になることがあるかと思うが、子どもや保護者が美術館に訪れる機会も増えたという話も聞いているので、今後もこちらも協力しながら、アートの日等への参加を通じて、子どもたちの感性を育てていきたい。</p>

委員	<p>美術館が面白い展覧会をしていることがよく分かった。1人でも多く利用してほしいと思っているが、学生は遠方で行くのが億劫だと感じている。美術館だけでなく、博物館や図書館など、他館と同時に利用する機会が増えれば、半日、全日と文化の森を利用するということになるので、遠方であったとしても利用が増えると思っている。そこで、他の館とどのような連携を行っているかが気になったため、お伺いしたい。</p>
事務局	<p>文化の森全体で連携して、文化の森フェスティバルを年4回開き、クイズラリーや各館独自の催しを実施している。今年度も実施予定であったが、コロナ禍で中止している。先日11月3日もフェスティバルを実施予定だったが、規模を縮小しクイズラリーのみを実施した。また、現在デジタルアーカイブを6館共同で実施している。</p>
委員	<p>学生が来館してもらうためには、イベントがなくても、気軽な気持ちで来てもらおうと思うことが大事ではないか。他県だとスタンプラリーをいつでも実施している所もあるようである。美術館だけの問題ではないが、例えば来館時に美術品の絵はがきをもらえたりしたら、学生も喜ぶのかもしれない。</p>
委員	<p>県の中心部ということでコロナ対応については特に大変であり、美術資料の収集予算も限られている中で、工夫して館の運営や資料の収集を行っていることについては感銘を受けるため、今後も引き続き継続していただければと思う。</p> <p>美術品のデジタル化を進めながら実際に来館してもらい、実物を鑑賞してもらうことが今後の焦点になるかと思うが、美術館がどのように進めていくかは、こちらも参考にしたい。</p> <p>また、部局が異動し、今後は文化施設の活用ということが重視されることになるが、基礎研究があつてこそ文化施設の利用が進むと考えているので、今後も怠らずに進めてほしい。</p>
委員	<p>コロナ禍で様々な展覧会が中止になる中、関係機関との調整の上、こちらが主催する展覧会を実施できたが、それは保護者や医療関係者など、様々な方の賛同があつて初めてできるものである。美術館は常時換気もして安全な施設であると思うが、そういうイメージをもっとアピールすることが必要ではないか。</p> <p>開園30周年記念のドイツ20世紀アート展については、徳島とドイツとの関係性がよく分かる面白い展示であり、来年度以降も多くの子どもたちが触れる機会になるため、いくらかでも常設展に残らないかと思った。</p>